(第1面)

産業廃棄物処理計画書

平成26年6月25日

鳥取県知事 様

提出者 鳥取県倉吉市中河原532-1 住 所 株式会社 小 鴨 氏 名 代表取締役 菅埜元晴 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 0858-48-2088

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他 その処理に関する計画を作成したので、提出します。

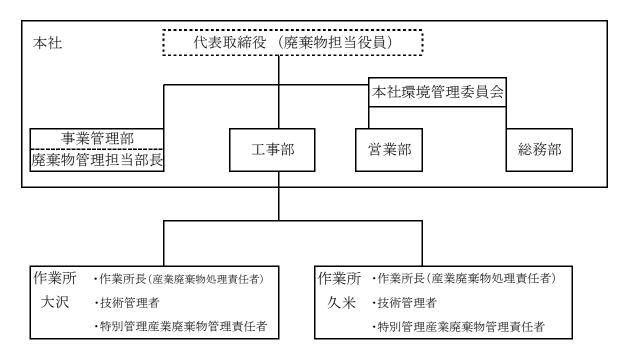
事	業場の名称	株式会社 小 鴨
事	業場の所在地	鳥取県倉吉市中河原532-1
計	画 期 間	平成26年4月1日~平成27年3月31日
当記	亥事業場において現に行	っている事業に関する事項
	①事業の種類	建設業
	②事業の規模	昨年度の元請完成工事高 12,000万円
	③従 業 員 数	5 6 人
	④産業廃棄物の一連 の処理の工程	コンクリートカ゛ラ、アスファルトカ゛ラ、金属くず → 再資源化 廃プ ラスチック類、ガラス陶磁器くず、ガレキ類 → 埋立 木くず → 焼却

(日本工業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

Á	·	所属:本社 職·氏名:代表取締役 菅埜元晴
Ą	廃棄物担当	組織名:環境管理課 組織人数:3人
	環境管理	○廃棄物処理に関する検討
	委員会	廃棄物の発生抑制、再生利用、中間処理、適正処理の推進、計画的な廃棄
		物の管理運営を行う上で必要な事項を検討する。
		•委員長-社長
		•委員一関連部署部課長、各作業所長
		•事務局一事業管理部環境管理課
	廃棄物処理	○廃棄物処理方針の策定
役	統括責任者	○廃棄物管理規定の策定、改廃
		○廃棄物処理に関する各種事項の決定、承認
割	担当課	○廃棄物処理計画の作成
		○廃棄物管理状況の把握と改善策の検討
		○処理業者、再生利用業者の調査、選定及び管理
		○委託契約の締結
		○産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物の交付、管理
		○特別管理産業廃棄物管理責任者、技術管理者等の設置
		○監督官庁への各種報告
		○社員、関連企業に対する教育、啓発
		○各作業所に対する情報提供、支援及び指導
		○その他関係する事項

廃棄物管理組織



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

	<u> </u>	F度)実績]						(t)
	産業廃棄物の種類	コンクリートがら	アスファルトがら	金属くず	廃プラスチック類	ガラス陶磁器	がれき類	木くず
	排出量	15,782	1,162	364	333	37	3,763	1,19
	(これまでに実施し	た取組)						
①現状	分別解体に努力	カした。						
	[目標]							(t)
	産業廃棄物の種類	コンクリートがら	アスファルトがら	金属くず	廃プラスチック類	ガラス陶磁器	がれき類	木くず
	排出量	15,200	1,100	350	320	35	3,600	1,10
	(今後実施する予定	定の取組)						
②計画	今後も更に分別	川解体に努力	Jする。					
業廃棄集	L 勿の分別に関する事	工 項						
术况未下	(分別している産業		新みが分別	に関する町	7 4日)			
	木材の分別に							
TH.U.		土思して、八	2 (計画 C)	ノ州ギヤゼ 9 1	ာ ့			
①現状								
		I I I I I I I I I I I I I I I I I I I						
	(今後分別する予算				関する取組)			
	(今後分別する予算 プラスチックの分				関する取組)			
②計画	. , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,				関する取組)			
②計画	. , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,				関する取組)			
②計画	. , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,				関する取組)			
	. , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	分別を行い、	再生する量		関する取組)			
	プラスチックの分	分別を行い、 用に関する	再生する量		関する取組)			(t)
ら行う産	プラスチックの分	分別を行い、 用に関する	再生する量		関する取組) 廃プラスチック類	カ・ラス陶磁器	がれき類	(t) 木くず
ら行う産	プラスチックの分 業廃棄物の再生利 [前年度(平成25年 産業廃棄物の種類 自ら再生利用を行った	分別を行い、 用に関する E度)実績] コンクリートがら	再生する量: 事項 アスファルトがら	を多くする。	廃プラスチック類			木くず
ら行う産	プラスチックの分 業廃棄物の再生利 [前年度(平成25年 産業廃棄物の種類 自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	用に関する 一度)実績 コンクリートがら 15,782	再生する量: 事項 アスファルトがら	を多くする。	廃プラスチック類	カ [*] ラス陶磁器 0	がれき類 0	, ,
ら行う産	プラスチックの分 業廃棄物の再生利 [前年度(平成25年 産業廃棄物の種類 自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量 (これまでに実施し	用に関する 三度)実績 コンクリートがら 15,782 た取組)	再生する量: 事項 アスファルトがら 1,162	を多くする。	廃プラスチック類			木くず
ら行う産	プラスチックの分 業廃棄物の再生利 [前年度(平成25年 産業廃棄物の種類 自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	用に関する 三度)実績 コンクリートがら 15,782 た取組)	再生する量: 事項 アスファルトがら 1,162	を多くする。	廃プラスチック類			木くず
ら行う産	プラスチックの分 業廃棄物の再生利 [前年度(平成25年 産業廃棄物の種類 自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量 (これまでに実施し	用に関する 三度)実績 コンクリートがら 15,782 た取組)	再生する量: 事項 アスファルトがら 1,162	を多くする。	廃プラスチック類			, ,
ら行う産	プラスチックの分 業廃棄物の再生利 [前年度(平成25年 産業廃棄物の種類 自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量 (これまでに実施し	用に関する 三度)実績 コンクリートがら 15,782 た取組)	再生する量: 事項 アスファルトがら 1,162	を多くする。	廃プラスチック類			木くず
ら行う産	プラスチックの分 業廃棄物の再生利 [前年度(平成25年 産業廃棄物の種類 自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量 (これまでに実施し	用に関する 三度)実績 コンクリートがら 15,782 た取組)	再生する量: 事項 アスファルトがら 1,162	を多くする。	廃プラスチック類			木くず
ら行う産 ①現状	プラスチックの分 業廃棄物の再生利 [前年度(平成25年 産業廃棄物の種類 自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量 (これまでに実施し	用に関する 三度)実績 コンクリートがら 15,782 た取組)	再生する量: 事項 アスファルトがら 1,162	を多くする。	廃プラスチック類			木くず
ら行う産 ①現状	プラスチックの分 業廃棄物の再生利 [前年度(平成25年 産業廃棄物の種類 自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量 (これまでに実施し 再生利用のた	用に関する 三度)実績 コンクリートがら 15,782 た取組)	再生する量: 事項 アスファルトがら 1,162	を多くする。	廃プラスチック類			木くず
ら行う産 ①現状	プラスチックの分 業廃棄物の再生利 [前年度(平成25年 産業廃棄物の種類 自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量 (これまでに実施し 再生利用のた	用に関する 三度)実績 コンケリートがら 15,782 た取組) よめの分別を	再生する量: 事項 アスファルトがら 1,162 徹底する。	を多くする。 金属くず 364	廃プラスチック類 の	カブラス陶磁器	がれき類	木くず (t)
ら行う産 ①現状	プラスチックの分 業廃棄物の再生利 [前年度(平成25年 産業廃棄物の種類 自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量 (これまでに実施し 再生利用のた	用に関する E度)実績] コンクリートがら 15,782 た取組) たの分別を	再生する量: 事項 アスファルトがら 1,162 徹底する。	を多くする。 金属くず 364	廃プラスチック類 の 廃プラスチック類	0	0	大くず (t) 木くず
ら行う産 ①現状	プラスチックの分 業廃棄物の再生利 「前年度(平成25年 産業廃棄物の種類 自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量 (これまでに実施し 再生利用のた [目標] 産業廃棄物の種類 自ら再生利用を行う	用に関する 三度)実績 コンケリートがら 15,782 た取組) よめの分別を コンクリートがら 15,200	再生する量: 事項 アスファルトがら 1,162 徹底する。	を多くする。 金属くず 364	廃プラスチック類 の	カブラス陶磁器	がれき類	大くず (t)
ら行う産 ①現状	プラスチックの分 業廃棄物の再生利 [前年度(平成25年 産業廃棄物の種類 自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量 (これまでに実施し 再生利用のた [目標] 産業廃棄物の種類 自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	用に関する 下度)実績] コンクリートがら 15,782 た取組) めの分別を コンクリートがら 15,200 主の取組)	事項 アスファルトがら 1,162 徹底する。 アスファルトがら 1,100	を多くする。 金属くず 364 金属くず 350	廃プラスチック類 の	カブラス陶磁器	がれき類	木くず (t)
ら行う産 ①現状	プラスチックの分 常廃棄物の再生利 「前年度(平成25年 産業廃棄物の種類 自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量 (これまでに実施し 再生利用のた 「目標」 産業廃棄物の種類 自ら再生利用を行う 産業廃棄物の重 (今後実施する予算	用に関する 下度)実績] コンクリートがら 15,782 た取組) めの分別を コンクリートがら 15,200 主の取組)	事項 アスファルトがら 1,162 徹底する。 アスファルトがら 1,100	を多くする。 金属くず 364 金属くず 350	廃プラスチック類 の	カブラス陶磁器	がれき類	木くず (t)

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

	「前年度(平成25年	E度) 宝繕]						(t)
	産業廃棄物の種類	コンクリートがら	アスファルトがら	金属くず	廃プラスチック類	カラス陶磁器	がれき類	木くず
	自ら熱回収を行った					·	,,	71-17
	産業廃棄物の量	0	0	0	0	0	0	
	自ら中間処理により減量 した産業廃棄物の量	0	0	0	0	0	0	1,19
	(これまでに実施し	た取組)						
①現状	木くずの焼却	処理を減らて	ナ					
	[目標]							(t)
	産業廃棄物の種類	コンクリートがら	アスファルトがら	金属くず	廃プラスチック類	ガラス陶磁器	がれき類	木くず
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	0	0	0	0	0	0	
	自ら中間処理により減量 した産業廃棄物の量	0	0	0	0	0	0	1,1
	(今後実施する予定	定の取組)					•	
う行う産	業廃棄物の埋立処	分又は海洋	投入処分に	関する事項	· ·			
ら行う産	業廃棄物の埋立処 [前年度(平成25年		投入処分に	関する事項				(t)
う行う産	[前年度(平成25年 産業廃棄物の種類		投入処分にアスファルトがら	関する事項金属くず	廃プラスチック類	カブラス陶磁器	がれき類	(t) 木くず
う行う産	[前年度(平成25年 産業廃棄物の種類 自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った	E度)実績]			廃プラスチック類	カブラス陶磁器 37	がれき類 3,763	
う行う産	[前年度(平成25年 産業廃棄物の種類 自ら埋立処分又は	E度) 実績] コンクリートがら	アスファルトがら	金属くず	廃プラスチック類	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		1,
	[前年度(平成25年 産業廃棄物の種類 自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	E度) 実績] コンクリートがら 0 た取組)	アスファルトがら	金属くず 0	廃プラスチック類	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		
	[前年度(平成25年 産業廃棄物の種類 自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量 (これまでに実施し	E度) 実績] コンクリートがら 0 た取組)	アスファルトがら	金属くず 0	廃プラスチック類	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		
	[前年度(平成25年 産業廃棄物の種類 自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量 (これまでに実施し	E度) 実績] コンクリートがら 0 た取組)	アスファルトがら	金属くず 0	廃プラスチック類	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		
	[前年度(平成25年 産業廃棄物の種類 育ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量 (これまでに実施し 再生可能なも	E度) 実績] コンクリートがら 0 た取組)	アスファルトがら	金属くず 0	廃プラスチック類	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		木くず
	[前年度(平成25年 産業廃棄物の種類 百ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量 (これまでに実施し 再生可能なも	E度) 実績] コンクリートがら 0 た取組) のが混じらた。	アスファルトがら 0 よいようにして	金属くず 0 ている。	廃プラスチック類 333	37		木くず (t)
	[前年度(平成25年 産業廃棄物の種類 百ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量 (これまでに実施し 再生可能なも [目標] 産業廃棄物の種類 百ら埋立処分又は	E度) 実績] コンクリートがら 0 た取組) のが混じらな。	アスファルトがら 0 よいようにして	金属くず 0 こいる。 金属くず	廃プラスチック類 333 廃プラスチック類	カラス陶磁器	3,763	木くず
	[前年度(平成25年 産業廃棄物の種類 百ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量 (これまでに実施し 再生可能なも [目標] 産業廃棄物の種類 百ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	E度) 実績] コンクリートがら 0 た取組) のが混じらな。	アスファルトがら 0 よいようにして アスファルトがら	金属くず 0 こいる。 金属くず	廃プラスチック類 333 廃プラスチック類	37	3,763	木くず (t)
①現状	[前年度(平成25年 産業廃棄物の種類 百ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量 (これまでに実施し 再生可能なも [目標] 産業廃棄物の種類 百ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量 (今後実施する予定	E度) 実績] コンクリートがら 0 た取組) のが混じらな。 コンクリートがら 0 定の取組)	アスファルトがら 0 よいようにして アスファルトがら 0	金属くず 0 ている。 金属くず 0	廃プ [°] ラスチック類 333 廃プ [°] ラスチック類 320	カラス陶磁器	3,763	木〈ず (t)
①現状	[前年度(平成25年 産業廃棄物の種類 百ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量 (これまでに実施し 再生可能なも [目標] 産業廃棄物の種類 百ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	E度) 実績] コンクリートがら 0 た取組) のが混じらな。 コンクリートがら 0 定の取組)	アスファルトがら 0 よいようにして アスファルトがら 0	金属くず 0 ている。 金属くず 0	廃プ [°] ラスチック類 333 廃プ [°] ラスチック類 320	カラス陶磁器	3,763	木くず (t)
<u>ら行う産</u> ①現状 ②計画	[前年度(平成25年 産業廃棄物の種類 百ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量 (これまでに実施し 再生可能なも [目標] 産業廃棄物の種類 百ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量 (今後実施する予定	E度) 実績] コンクリートがら 0 た取組) のが混じらな。 コンクリートがら 0 定の取組)	アスファルトがら 0 よいようにして アスファルトがら 0	金属くず 0 ている。 金属くず 0	廃プ [°] ラスチック類 333 廃プ [°] ラスチック類 320	カラス陶磁器	3,763	木〈ず (t)
①現状	[前年度(平成25年 産業廃棄物の種類 百ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量 (これまでに実施し 再生可能なも [目標] 産業廃棄物の種類 百ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量 (今後実施する予定	E度) 実績] コンクリートがら 0 た取組) のが混じらな。 コンクリートがら 0 定の取組)	アスファルトがら 0 よいようにして アスファルトがら 0	金属くず 0 ている。 金属くず 0	廃プ [°] ラスチック類 333 廃プ [°] ラスチック類 320	カラス陶磁器	3,763	木くず (t)

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

未光光的	[前年度(平成25年度) 実績]						(t)
	産業廃棄物の種類	コンクリートがら	アスファルトがら	金属くず	廃プラスチック類	カラス陶磁器	がれき類	木くず
	全処理委託量	0	0	0	0	0	0	59
	優良認定処理業者へ の <u>処理委託量</u>	0	0	0	0	0	0	59
①現状	再生利用業者への 処理委託量	0	0	0	0	0	0	0
	認定熱回収業者への 処理委託量	0	0	0	0	0	0	0
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0	0	0	0	0	0	0
	「日梅」							(+)
	[目標] 産業廃棄物の種類	コンクリートがら	アスファルトがら	金属くず	察プラスチック類	ガラス陶磁器	がれき類	(t) 木くず
	[目標] 産業廃棄物の種類 全処理委託量	コンクリートがら	アスファルトがら	金属<ず 0	廃プラスチック類	カラス陶磁器 0	がれき類	(t) 木くず 56
	産業廃棄物の種類		0		0			木くず
②計画	産業廃棄物の種類 全処理委託量 優良認定処理業者へ の	0	0	0	0	0	0	木くず 56
②計画	産業廃棄物の種類 全処理委託量 優良認定処理業者への 処理委託量 再生利用業者への 処理委託量 認定熱回収業者への 処理委託量	0	0 0	0	0 0	0	0	木くず 56 56
②計画	産業廃棄物の種類 全処理委託量 優良認定処理業者への 処理委託量 再生利用業者への 処理委託量 認定熱回収業者への	0 0 0	0 0	0 0	0 0 0	0 0	0 0	木<ず 56 56 0

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
- (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成 工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規 模が分かるような前年度の実績を記入すること。
- (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。